令和６年度第３回佐賀市環境審議会　議事録

◆　開催日時

令和７年２月１９日（水）　１４時００分～１６時００分

◆　開催場所

佐賀市清掃工場２階　大会議室

◆　出席委員（敬称略）

岡島俊哉（会長）、大渡啓介（副会長）、小城原直、草場真智子、松尾真理子、藤井律子、有森　明子、髙橋朋子、中村佳代、大石寛貴、中原正登、中野千歳、島﨑健、多々良たまえ

◆　欠席委員（敬称略）

田中宗浩、関清彦、松本考司

◆　事務局

宮﨑環境部長

環境政策課（梶山副部長、福本副課長、香田係長、石川室長、金ヶ江主査、西岡主査、小柳主任、前田主任）

循環型社会推進課（馬場副部長、王丸副課長、三好係長、副島主査）

環境保全課（大家課長、石井参事）、衛生センター（熊添所長、吉原副所長）

施設機能向上推進室（田中室長）

◆　傍聴者

なし

◆　議事要旨

１　開会・挨拶

２　議事

（1）第３次佐賀市環境基本計画の策定について

≪事務局説明≫

資料１－１、１－２

≪意見交換等≫

質疑・意見なし

（2）第３次佐賀市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）の策定について

≪事務局説明≫

資料２

≪意見交換等≫

〇委員

p.50 に追加した自動車のコラムについて、自家用車から排出される CO2 がなぜ運輸部門なのか疑問である。家庭で灯油、電気、ガス等を使用するが、家庭生活で使用するものは区別しなくてもよいのではないか。統計上のルールで家庭部門と運輸部門を分けているのであれば仕方がないが、市民にとってその区分はあまり意味を持たないように思う。（自動車からの排出量は、市域から排出されるエネルギー起源 CO2 の）30％を占めるため、コラムではなく、1 ページ分使うなど大きく取り上げてほしい。

また、「ふんわりアクセル e-スタート」とあるが、具体的にどのくらいの加速なのかわかりづらい。e-スタートとは、20km/h で約５秒かけて加速するが、このような説明も追記しないとわからない。佐賀市は、家庭によっては１人１台自家用車を持っている場合もあるため、自動車から排出される CO2 についてもっと深刻に考えていただきたい。

〇事務局

都市部と地方では自動車に対する考え方が違うと思うが、佐賀市は特に運輸部門からの排出量が多い地域である。そのことに問題意識を持ってもらうためにも、家庭部門に溶け込ませるより、運輸部門として区別することが効果的であり、運輸部門の施策を強化しやすくなると考えている。

また、「ふんわりアクセル e-スタート」について、「20km/h を 5 秒で」というのはわかりやすい表現だと思うので、これから出前講座等で周知していきたい。

〇会長

ゼロカーボンシティさがし推進パートナー企業数の内訳について、登録企業の業種の偏りはあるのか。また、ゼロカーボンシティに向けた現状の取組レベルはどういう状況か。

〇事務局

パートナー登録企業の内訳は、保険・金融業、サービス業が大半を占めており、宿泊業は比較的少ない状況である。また、この制度は九州内では佐賀市が率先して始めたもので、佐賀市独自の制度であり、全国でも珍しい取組である。鳥栖市や佐賀県も類似の制度を開始している。様々な業種の企業に登録いただいており、現在 2 月時点で 170 社登録がある。登録数はなるべく最新のものを掲載したい。

○会長
どういった企業・業種に入っていただくのが望ましいか。

○事務局
どのような業種でもよいが、パートナー企業登録後に、脱炭素にいかに取り組んでいただくかが重要である。引き続き取組を推進していきたい。

○委員
私が経営している企業は、パートナー企業に入っていない。
佐賀銀行でも、SDGs に関する取組が行われている。その項目の中に、CO2 削減も掲げられていた。弊社もぜひ登録したいので、登録方法等教えていただきたい。

○事務局
ぜひご登録ください。佐賀市のゼロカーボンシティ推進パートナー制度は、エコドライブ、クールビズなど、脱炭素に関する取組を３つ以上行っていれば登録できる。佐賀銀行で行っている取組は、佐賀市の取組を参考に作られているが、企業の取組内容をより詳しく見ていくような内容で、差別化して作られている。

○会長
差別化とあるが、似たようなものが２つ、３つあると混乱してしまうではないか。

○事務局
制度については、佐賀市が先行事例ということで、佐賀銀行が相談に来られた。佐賀市は多くの事業者に登録いただき裾野を広げることを目標に取り組んでいる。
一方、佐賀銀行は、企業の CO2 排出量の見える化・削減の取組等について表彰を行う仕組みを作られている。お互いの制度が干渉せず、メリットを創出し合うものになっている。
鳥栖市も佐賀市と同様の取組を行っている。

(3) 佐賀市一般廃棄物処理基本計画の策定について
≪事務局説明≫
資料３

≪意見交換等≫
○委員
「1-（3）排出抑制指標」の修正後の文言について、これは国が決めているのか。「１人１

日あたり“の”ごみ排出量」というように、“の”を入れた方が読みやすいと思う。

○事務局
排出抑制指標の文言の表記については、修正を検討したい。

○委員
別紙資料⑤のコラムについて、消費期限というのは、期限が切れたものを食べると体に害を及ぼす可能性があるため、「食べないほうがいい」ものではなく、「食べてはいけない」ものだと認識している。一方、賞味期限は品質を維持する期限であり、期限を過ぎても体に害を及ぼさない。私たちの認識をお知らせさせていただいた。

○委員
水切りのコラムではメリットについて書かれているが、メリットだけでなく、水切りをしないと「ごみ収集車の運搬回数が増加すること」や、「ごみの水分が多いとごみの焼却過程で炉が冷え、焼却の温度を上げるためにより燃料が必要になる」など、取組を徹底する必要性が感じられる書き方にしていただきたい。

○事務局
表現について再度検討したい。

（4）第２次東よか干潟環境保全及びワイズユース計画の策定について
≪事務局説明≫
資料４－１、４－２

≪意見交換等≫
○委員
修学旅行誘致に関して、市内に収容能力のある宿泊施設があるのか。

○事務局
宿泊施設の確保については、市全体の課題である。
修学旅行誘致の主旨としては、東よか干潟を知っていただくこと、また、干潟体験を通して干潟の魅力を感じてもらい、次世代の人材育成につなげることを目指している。

○委員
修学旅行であれば宿泊が前提だと思う。具体的な対応を考えておかないと実現しないのではないか。福岡市で宿がとれないので佐賀市で宿をとっているケースもある。

○事務局

宿泊施設については非常に厳しい状況である。現在、佐賀県内では働き手・担い手不足で営業できない旅館やホテルもある。

そういった現状を踏まえ、修学旅行誘致の形としては、従来の 100 人規模のものではなく、チームの人数を絞った探求型のプログラムで行う形を検討している。

宿泊施設の問題もあるが、エコツーリズムに詳しい業者等と連携しながら、環境に関心のある人材を育てていきたい。

○委員

修学旅行の宿泊では、引率する教師の数も限られているため、同じ場所で、ある程度まとまって生徒を管理できるような形が望ましいと思う。

○副会長

干潟だけでなく、水や土壌の問題で、PFOS や PFAS があるかと思う。干陸化の問題があるが、干潟や泥を有効利用しようとしたときに、簡単にはいかない状況になっている。

○事務局

干陸化について、現在も年々泥が積み重なっているが、これは自然現象なので受け入れていく方針である。ただ、東よか干潟には、シチメンソウ等の貴重な動植物・生物が生息しているので、そういった生物に干陸化がどのような影響があるのか、まずは整理・検証していく必要がある。

○委員

「季節・周年のイベントの開催」とあるが、シチメンソウの季節にバスで行こうと思ったがバスがなかった。公共交通機関を利用して行こうと思っても行けない。その点も考慮していただきたい。

○事務局

東よか干潟のアクセスについて、バス停から４～５㎞あり、アクセスの悪さは課題と考えている。貸し切りタクシーの取組等の紹介を行っているので、引き続き取り組みたい。

○委員

アクセスの問題について、私の子どもが学校行事で東よか干潟まで歩いていかなければならないと言っていた。けっこう距離があり、暑い時期には熱中症の危険もあるので、アクセスについては検討していただきたい。

〇委員
東よか干潟の探求学習の内容に興味がある。既存のプログラムや今後、考えているものがあれば教えていただきたい。

〇事務局
東よか干潟及びひがさすでは、小中学校の学習の場として県内外問わず社会科見学として利用していただいている。
現在行っているプログラムとして、野鳥に関連するもの、泥の中から干潟の生き物を探す活動、海洋プラスチックを使用した万華鏡づくりやプラスチック片を使用した貼り絵等の様々なコンテンツを用意している。今後、探求型のプログラムとして、干潟の歴史や生活、伝統食等についても提供できればと思っている。

〇委員
ワークショップは施設の職員が対応しているのか。

〇事務局
ひがさすは、市直営で運営しており、ワークショップはそちらの職員が対応している。また、年に数回一般市民を対象としたワークショップも行っており、外部から講師を招いて行っている。

〇委員
鹿島市でも同じようなことを行っているが、競合しないのか。コロナ前は、ガタリンピックや干潟体験ツアー等で年間１万の人が訪れていたそうだ。

〇事務局
修学旅行のプログラムについては、干潟体験や野鳥観察、干潟の動植物観察等を考えている。東よか干潟の泥は、鹿島の干潟と泥の性質が異なり泥が固いので、体験できる内容は異なる。鹿島ではガタリンピックで干潟の中を泳ぐようなイベントを行っているが、東よか干潟では水足袋を履いて泥に入り生き物を採取したり、歩いたりすることができる。

〇会長
市営バスの路線の拡大は可能なのか。

〇事務局
路線拡大については、国土交通省の認可が必要のため難しい。

○委員

「Ⅰ ①環境データの定期的な収集　・野鳥、底生生物、植物の調査」とあるが具体的に教えていただきたい。

○事務局

野鳥については「モニタリングサイト 1000（環境省）」というものがあり、日本野鳥の会が主体的に調査し、環境省に報告している。

底生生物については、佐賀市と佐賀大学と一緒に行っている。泥を採取し、底生生物の調査を行っている。採取した生物については専門の業者に分析を依頼している。これらの調査はラムサール条約登録の翌年から毎年行っている。植物については、シチメンソウヤード周辺の植生の調査、シチメンソウの生育状況等の調査を行っている。

○委員

環境基本計画の概要版の p.2「外来生物についても対策を強化」とある。以前から指摘しているが、市内の外来種の問題が深刻である。オオキンケイギクは水草とは違い道端に生えているため、業者でなくても見つけ次第簡単に抜いて駆除することができる。市民にも駆除を体験できる機会をつくるなど、早急に対策に取り組んでいただきたい。

○事務局

小城市で先行事例があるようである。そのような活動があれば、市民に呼びかけたいと考えている。また、令和７年５月の市報でも、市民に駆除を呼びかける内容で掲載を予定している。オオキンケイギクについては発見次第駆除ができる。しっかりと呼びかけたい。

○委員

買い物の際に、食品トレーを食料品店に置いていけるようになれば、家庭のごみが減ると思う。食品トレーの回収を大型店等に要請してはどうか。

○委員

（購入後家庭で洗ったトレーの回収は）弊社でも取り組んでいるが、意識が高い方だけが繰り返し取り組んでいるように思う。

○会長

言われている食品トレーは、具体的にどのようなもののことか。

○委員

トマトやきのこなど、トレーに入れられてラップされているが、その場でラップを外してトレーを店に置いて帰れるようにすれば、家庭ごみにならずに済む。また、こういった商品は、トレーではなく袋での包装で十分なように思う。

〇委員

干潟のワイズユースについては、干潟を利用しながら環境を守ることができ、素晴らしいと思う。佐賀平野もワイズユースしていただきたい。環境基本計画の将来像で「トンボ舞う」と掲げているが、トンボをどのように活用するのか記載されていない。神野公園のとんぼ池では、農薬の影響がなく佐賀平野の多様なトンボを見ることができる。計画内に「多様な主体が関わる」とあるが、ボランティアで除草作業を行うなど、とんぼ池では既に多様な主体が関わり取り組んでいる。ぜひ、観光地としてとんぼ池を取り上げていただきたい。

〇事務局

今日、市長が記者会見において神野公園の再整備について述べている。神野公園が新しくなると他県からも人が来る機会も増えると思う。それに合わせてとんぼ池もPRしたい。

〇会長

それでは、ほかに意見がないようであれば、本日の議事は終了としたい。

3　その他

なし